

		音 楽 研 究 会				部 会 記 録	
日時		平成 31 年 3 月 6 日（水） 15：30～16：45					
部会名		研修部 授業実践部会				主任	今泉 美保
参加数		11 名	司会	今泉 美保		記録	須田 直之
研 修 内 容	アンケートをもとにした歌唱指導についての研修と今年度のまとめ						
	場所：横浜市立桜岡小学校 音楽室						
	研修の前に、「Wish ～夢を信じて～」（杉本竜一作詞作曲）を歌った。						
	【アンケート内容に沿って】						
	①歌唱の主題で困っていることはありますか。						
	Q：合唱となると、「音程が合わないこと」に子どもたちが気を取られてしまう。						
	A：二人組になり、音程があっているかを聴き合って、耳を育てていく。						
	A：「ここに気をつけてね」と教師が明確に提示して、聴いてもらう。						
	A：「なんでもあり」にさせないこと。						
	Q：「声が合っている状況」を実感させるためには。						
A：少人数から明るさを合わせることがいいかもしれない。							
A：耳が育っていないと、音の重なり of 綺麗さを実感できない。							
Q：パートはどうやって決めているか。							
A：希望制が多い。両方歌えるようにしていることもある。							
②「曲想」を生かした表現をするための工夫について。							
Q：曲想やフレーズ感を育むためには。							
A：歌詞と日本語の美しさを味合わせるなど。							
A：「ふるさと」や「冬げしき」では、一行詩を読んで、そこを歌ってみる。そうすることで、曲想を工夫することができる。							
③「発声」について							
Q：発声について、どのようなことをしているか。							
A：自作のあいさつの「おねがいしますのメロディ」「ありがとうのメロディ」で発声も兼ねる。							
A：ハミングをしたあと、そのまま口を開けると、いい発声になる。							
A：曲の中で、のびのびと歌える部分でいい声がでたら共有する。							
A：低学年の発声で、ジャンプして、「ホッ」をする。一回ジャンプしたら、一回「ホッ」というのを、一回ずつ増やす。							
A：富澤先生の、イー星人もよく使える							
④歌唱の教材研究について							
A：写真を用いるだけで、声が変わってくる。大事なのは、イメージをもつこと。							
A：メッセージ性のある曲は、距離感（自分に対する歌なのか、友達のことなのか、誰に対する歌詞なのか）を大人がはっきり持っている、子どもにとってわかりやすい							

⑤次年度、授業実践部会で学びたいこと

A：参加者のみなさんが、どのように授業をされているのかを少しでも見てみたい

A：手話のできる曲があれば知りたい。

Q：パート分けをどうしているのか、知りたい

A：範奏をして、できそうなものを選ばせる。基本的には希望性で。

A：一人2つパートをできるようにして、「主な旋律」と「何か」できるようにしている授業研もあった。